

掲載日：7月25日（火）

差替：7月26日（水）

原子力機構 燃料研究棟汚染事故に係る対応（日報）

7月24日（月） 日報【実績】	内 容
現場復旧の状況	<p>○108号室（汚染事故発生箇所）の現場復旧に向けた措置</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・フード*1（H-1）の除染作業を開始するに当たり、可搬型α線ダストモニタ*2の設置等を実施し、除染作業を開始するための準備を終えました。</li></ul> <p>※ 作業内容の詳細は、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ フード（H-1）の汚染検査・除染作業及び整理作業 <a href="https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/information/2017/072101.pdf">https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/information/2017/072101.pdf</a> をご参照ください。</li></ul> <p>*1 フード；非密封の放射性物質を用いた実験などを行う場合に、作業者及び環境への放射性物質による汚染等を防止するための局所排気装置。</p> <p>*2 可搬型α線ダストモニタ；作業環境の空気中の放射線（アルファ線）核種の放射能濃度を連続監視するための可搬型の装置。</p>
原因究明の状況	<p>○内容物の同定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・燃料研究棟の貯蔵容器80個分の帳票類の履歴調査を継続して行っています。8月前半を目途にその結果を取りまとめ、今後の貯蔵容器の点検方法等の対策の検討に反映する予定です。</li></ul> <p>○破裂メカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・核燃料物質と混合したエポキシ樹脂の放射線（アルファ線）分解によるガス発生現象に関して、長期間の挙動を模擬するため、分解による樹脂の重量減少と密閉状態での内圧変化の測定を継続して行っています。8月下旬までに得られたデータを、樹脂製の袋の内圧上昇の評価に反映する予定です。</li></ul>
被ばく評価の状況	<p>○被ばく評価（バイオアッセイ協力他）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・放射性物質の摂取に至った要因事象の調査のため、108号室内で採取したスミヤろ紙のSEM（走査電子顕微鏡：Scanning Electron Microscope）観察の準備を、</li></ul>

掲載日：7月25日（火）

差替：7月26日（水）

	照射燃料集合体試験施設（FMF）において開始しました。
その他 （外部対応など）	<p>○作業員の状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・3名が量研放医研に入院しました。入院した者の容態については、特段の変わりはありません。</li></ul> <p>○外部対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・茨城県原子力安全対策委員会に対し、原因究明の状況等について説明を行いました。</li><li>・原子力規制庁と定例面談を行い、以下の事項について説明しました。<ul style="list-style-type: none"><li>➤ スミヤろ紙の分析作業及びフード内除染作業の準備状況について</li><li>➤ フード内除染作業の準備のための可搬型<math>\alpha</math>ダストモニタの搬入と試運転について</li></ul></li></ul>